

2009年6月1日
株式会社クラウド・スコープ・テクノロジーズ

PATHMANAGER VPLS モジュールをリリース

日本初、広域 Ethernet 網の「見える化」監視を実現

IT ホールディンググループの株式会社クラウド・スコープ・テクノロジーズ（本社：東京都港区、代表取締役社長：高岡利光、以下クラウド・スコープ・テクノロジーズ）は、『**PATHMANAGER VPLS モジュール**』を本日より提供開始いたします。

PATHMANAGER について

PATHMANAGER は、目には見えない各ネットワークレイヤの通信経路情報を可視化し、ネットワークやネットワークサービスの運用者が次に行うアクションを簡単に導き出す仕組みを提供してきました。これにより、運用者の負荷と監視・管理コストを引き下げることに貢献してきています。

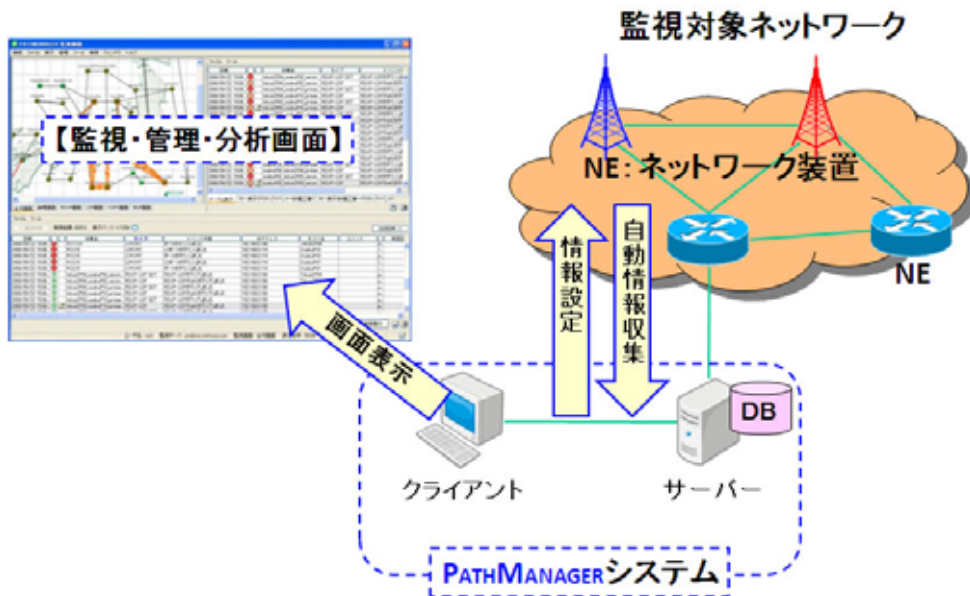


図 1 . PATHMANAGER のシステム構成図

PATHMANAGER VPLS モジュールについて

この度、「見える化」の監視対象となる VPLS (Virtual Private LAN Services) は、離れた拠点の LAN (Local Area Network) を Ethernet で通信させる広域 Ethernet 技術であり、物理的な距離を意識することなくネットワーク上の種々のサービスを利用できるため、多くの企業や大学で利用されてきています。しかしながら、VPLS を構成する Ethernet Pseudowire (疑似回線) の状況を把握することが難しく、VPLS 運用上大きな課題となっていました。

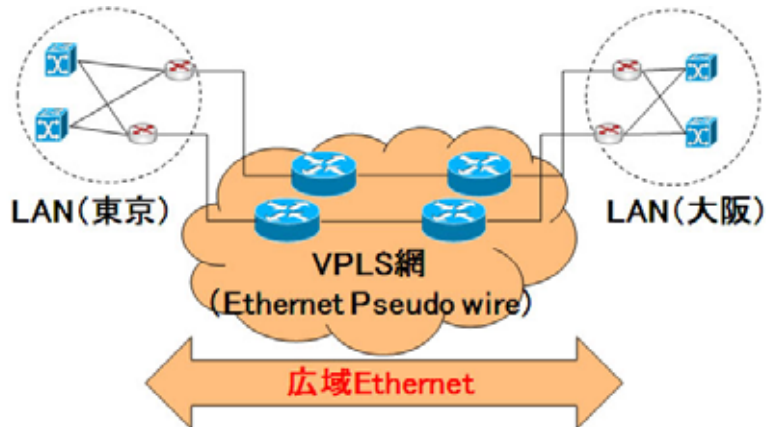


図 2 . VPLS を利用した広域 Ethernet 網

そこで、新しく開発した「**PATHMANAGER VPLS モジュール**」を利用いただくことにより、MPLS (Multi Protocol Label Switches) の LSP (Label Switched Path) 上の Ethernet Pseudowire や、Ethernet Pseudowire で構成される VPLS 網の監視・管理をより容易に行えるようになりました。

また、**PATHMANAGER VPLS モジュール**は、**PATHMANAGER ATM Pseudowire モジュール**と併用することが可能です。この場合、MPLS ネットワーク上に構成する複数種類の Pseudowire (Ethernet Pseudowire と、ATM Pseudowire) を同時に監視できます。

PATHMANAGER VPLS モジュールの特長

今回リリースした **PATHMANAGER VPLS モジュール**の特長は以下の通りとなります。

【VPLS / Ethernet Pseudowire の監視】

MPLS の LSP 上に構成される Ethernet Pseudowire と VPLS に関する情報をネットワーク装置から収集し、ネットワーク構成図を自動的に構成し、Ethernet Pseudowire や VPLS に関する情報を視覚的に監視することが可能になります。

【VPLS / Ethernet Pseudowire に関する情報の検索】

VPLS / Ethernet Pseudowire の情報と、これらを構成している下位レイヤの情報 (LSP 情報、L2/L1 のポート情報、ネットワーク装置間の物理リンク情報、ネットワーク装置情報等) をヒモ付け、各レイヤ情報間の関連性を検索することが可能になります。

【追加機能詳細】

追加機能（効果）	詳細
Auto Discovery 機能	自動的にネットワークに存在するルータの情報を取得
障害表示機能	VPLS や、Ethernet Pseudowire が通過する物理回線などに障害が発生した場合、リストに障害内容を表示し、ネットワーク図に経路を表示
障害履歴管理機能	VPLS や、EthernetPseudowire に関係する過去の障害を検索し、ネットワーク図に障害発生当時の経路を表示
経路検索機能	現在の Ethernet Pseudowire 経路を検索し、ネットワーク図に該当ルートを表示 VPLS PE 間の仮想回線を検索し、ネットワーク図に該当ルートを表示
検索機能	VPLS や、EthernetPseudowire に関する情報の検索表示が可能
フィルタ機能	VPLS や、EthernetPseudowire のみ関連するイベントだけを表示するなどのフィルターが可能
計画工事機能	VPLS や、EthernetPseudowire に関連するイベントに対して、工事中である旨フラグを立てることが可能

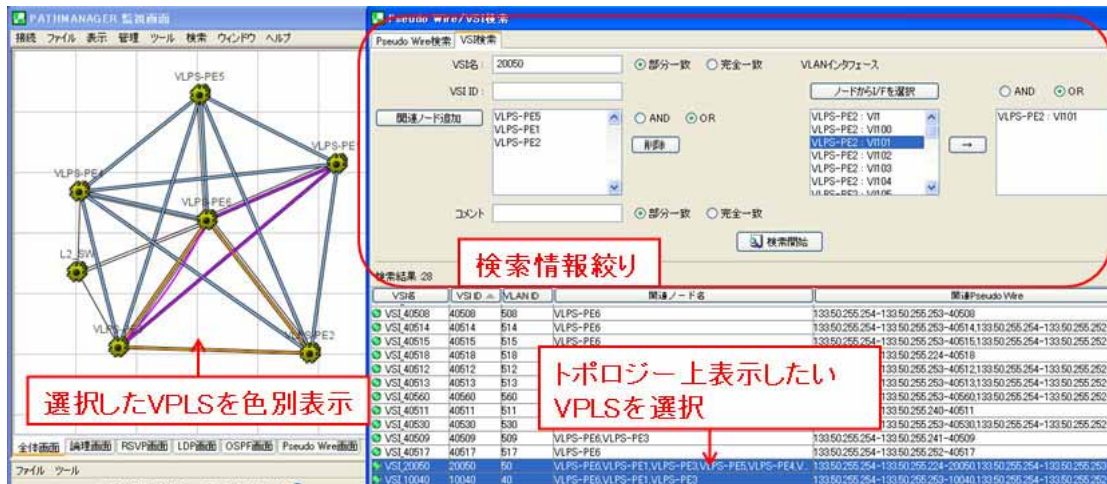


図 3 . VPLS PE 間の仮想回線検索機能利用画面



図 4 . VPLS を構成している Ethernet Pseudowire の経路検索機能利用画面

クラウド・スコープ・テクノロジーズについて

クラウド・スコープ・テクノロジーズは、次世代のネットワーク監視・管理・分析システム **PATHMANAGER** の事業譲渡を受け、2008年7月1日に創業しました。ネットワークサービスの監視・管理のデファクトスタンダードを目指し、情報通信ネットワーク製品・サービスの開発、販売、導入支援を行っています。

【これまで開発・追加した機能】

- ・ネットワーク監視・管理機能
VLAN、STP/RSTP、Ether Channel
HSRP
MPLS RSVP-TE
IP-VPN OSPF
ATM Pseudowire
P2MP-MPLS (Point to Multi Point MPLS)
- ・ネットワーク AB 面の関連付け監視機能
- ・ネットワーク帯域監視機能
- ・実ネットワーク情報を基にした
設計シミュレーション機能
- ・他 OSS 等への接続を行うための各種 API
- ・プロビジョニング (Provisioning)

今後も、6PE、MPLS OAM、Ethernet OAM、IP multicast などの監視・管理機能、サーバ監視機能などのリリースを予定しております。

本件に関するお問合せ
株式会社クラウド・スコープ・テクノロジーズ
営業部
TEL : 03-3403-8321
E-Mail : cloud-info@cloud-scope.com
Web : <http://www.cloud-scope.com/>